

事業参加後も広がる活動の輪！～事後活動～

IYEOとは？

1959年から始まった内閣府の青年国際交流事業に参加した青年たちが、国際理解を深め、事業で得た学びを広く社会に還元することを目的として、自主的に発足させた同窓会組織が「日本青年国際交流機構」(IYEO: International Youth Exchange Organization of Japan)です。IYEOは47の全ての都道府県で自主的な団体を組織して、幅広い活動を展開しています。



IYEOマスコットキャラクター「ランナス」
走る(RUN) +地球(EARTH)

コンセプト

IYEOには日本全国のみならず国境を越えてたくさんネットワークがあり、青少年の育成を基盤としながら様々な社会貢献活動に取り組んでいます。ランナスは、地球自体が走り回るかのようにいきいきと活動するIYEO会員を表しています。船の帽子と飛行機の鞆を身につけて、今日も笑顔で走り続けます。

47都道府県 8ブロックで活動中!

<各都道府県IYEOの主な活動>

- ・ブロック大会(青少年国際交流を考える集い)
- ・内閣府青年国際交流事業で招へいされた外国青年への地方プログラム
- ・事業説明会での体験談発表等を通じた内閣府青年国際交流事業の広報
- ・都道府県独自の国際交流・地域貢献プログラム

IYEOではどんな活動ができる？

IYEOは、「社会でリーダーシップを発揮できる人材育成を目指して」を活動方針に掲げ、①青年層の活性化の基盤づくり、②地域社会を活性化するとともに地域に貢献できる人材育成、③国際ネットワークをいかした国際協力活動を柱に様々な活動を展開しています。

① 青年層の活性化の基盤づくり

② 地域活性化・地域に貢献できる人材育成

③ 国際ネットワークをいかした国際協力活動

① 青年層の活性化の基盤づくり

IYEOは、国際交流への知見・経験をいかし、青年の「やりたい」を実現する、社会活動の場づくりと環境整備に取り組んでいます。

地元青年と外国青年との国際交流プログラムの企画・運営

内閣府の青年国際交流事業に参加するために招へいされた外国青年の地方プログラムを各都道府県IYEOの実行委員会が中心となって企画しています。地元青年やホームステイのホストファミリーにとっては、日本にいなから国際交流ができる貴重な機会です。自分たちの内閣府事業での参加経験を胸に、日本の次の世代や地元の人たち、そして日本に来た外国青年双方に国際交流のすばらしさを伝え、「参加してよかった」と思えるプログラムになるよう、休日に時間を忘れて企画会議をすることもしばしばあります。

また、各都道府県の独自の活動も盛んで、内閣府事業の枠を超えて、日本在住の外国人と地元住民との交流を企画・運営するIYEOもあります。



内閣府事業地方プログラム実行委員会
(神奈川県IYEO)



English Café(長野県IYEO)

IYEOオリンピック・パラリンピック ボランティアチーム

パラリンピックはオリンピックと比較して、まだまだ認知度が低く、競技によってはスポンサーが付きにくく、選手自身がエントリー費用や渡航費を支払って、国際大会に参加している厳しい現状があります。IYEOオリパラボランティアチームは「あなたが創るBorderlessな社会」をテーマとして活動を続けています。「オリパラ」という名称ですが、同大会に限らず、肢体不自由者卓球協会(PTTA)の新人研修で英会話レッスンを実施したり、ジャパンオープンでアテンド通訳ボランティアとして協力しています。



パラ卓球ジャパンオープン2019東京大会
での支援活動



IYEOオリパラボランティアチーム

IYEO自主活動サポート助成金制度(チャレンジファンド)による 会員のボランティア活動の啓発・促進

「チャレンジファンド」は、IYEOの人的活力をより社会に提供すること、また団体として活性化を図ることを目的として2011年に創設されました。IYEO会員が自主的な国際交流活動を実施する際に、その活動資金の一部を助成しています。

例えば、2018年9月6日に発生した「北海道胆振東部地震」への復興支援活動の一環として、被災地の方へ憩いの場を設けることや、各被災地を訪問する、北海道IYEOの「Visit胆振」の取組に助成されています。

詳細はこちらを御覧ください。

⇒URL:<https://www.iyeo.or.jp/ja/profile/challengefund.html>



Visit胆振(北海道IYEO)

②地域活性化・地域に貢献できる人材育成

内閣府の青年国際交流事業で得た経験を社会に還元するのは、国際交流を通じてのみではありません。IYEOは、地域活性化・地域貢献の観点から、様々な活動を行っています。

全国大会・ブロック大会（青少年国際交流を考える集い）

内閣府、地方公共団体等が実施した青少年国際交流事業の既参加者、国際交流に関心のある青少年等が、事後活動の情報交換、地域、職場等における事後活動の促進等についての議論を行うことを目的に、年に1回、「全国大会」を、また、全国8ブロックに分かれて**ブロック大会を開催し、近隣都道府県の連携も図っています。**これらは、**直近の事業参加青年の今後の事後活動を行うに当たっての研修の役割**もあります。

実行委員会の声（2019年度北海道・東北ブロック大会）

石巻を代表する人材育成と地域活性化を実施している湊水産株式会社の取組を通して、震災をどのように乗り越え、復興を成し遂げてきたか、震災後、社屋の再建を機に始めた体験型食育プログラムがなぜ人づくりや地域づくりにつながっているのか、企業として人材育成をするために意識していることは何かを、講話と食育プログラムの体験を通じて学びました。



ブロック大会での震災復興・食育を学ぶ講話・体験型プログラム(宮城IYEO)

参加者の声

- ・食育の大事さ、企業における保育園の意義について参考になりました。従業員を大切にしている姿勢を学びました。
- ・地域に密着した企業の在り方、組織の在り方を知ることができました。
- ・意見交換会でそれぞれの意見を出し合い、なるほどと思うこともありました。ただ参加して終わりではなく、振り返って考えることがまた一つの学びになると感じました。

2019年度ブロック大会（青少年国際交流を考える集い）一覧

ブロック	開催県	日程	テーマ
四国	徳島県	7/20-21	ともに学び、ともに育ち、ともに生きる～徳島から広げよう、世界と繋がる力～
北海道・東北	宮城県	7/27-28	震災復興から学ぶ人づくりと地域づくり
近畿	京都府 (全国大会)	8/24-25	『不易流行』～古都の伝統を基軸とした新たな挑戦～
北信越	福井県	10/19-20	世界に打ち出そう、日本一幸福な福井県の魅力を！ ～世界規模の視点で再発見された地域の魅力を改めて世界へ発信することで、国際交流と地域活性化をさらに強めていける人材の育成を目指して～
中国	山口県	10/26-27	「災害復興支援から見てくるもの」山口県周防大島からの発信～地域交流を通じた外国人材への働きかけと地域人材の活躍と未来展望～
関東	群馬県	11/9-10	ぐんまからの発信～青少年が夢を描ける魅力的な街づくりについて～
九州	沖縄県	2020年 1/25-26	沖縄でつくる・沖縄から広がる“おっきな輪”
東海	愛知県	3/14-15	Challengers Summit in TOKAI ～日本の中心の挑戦者たち～

大規模災害復興支援活動

IYEOと緊密な関係のある国内外の機関等が、大規模な災害等により罹災した時に、IYEO会員からの募金により、速やかな支援を図っています。

例えば、2018年に発生した西日本豪雨の際には、被災県のIYEO会長と連絡を取り、各県の会員の被災状況を確認した上で、募金を開始しました。

この募金に対しては、ソロモン諸島、スウェーデン、ウクライナ、ブルネイの事後活動組織からも支援が届きました。集められた募金は、被災県のIYEOが把握したニーズに合う企画を提案し、そのニーズに対応する支援に充てられています。



2018年の西日本豪雨による被害に対する支援活動(広島県IYEO・岡山県IYEO(岡山青年国際交流会))

③国際ネットワークをいかした国際協力活動

内閣府の青年国際交流事業に参加した青年は日本人のみではありません。約60年の長い歴史の中、既参加青年たちは世界的な人的ネットワークを形成・発展させています。

IYEOの国際ネットワーク



1. 「東南アジア青年の船」事後活動組織 : SSEAYP International

「東南アジア青年の船」事業 (SSEAYP) の参加11か国では、IYEOと同様に活動団体を組織し、各国において各種の国際交流活動及び青少年健全育成活動等に寄与しています。SIはSSEAYPIに参加することで得られた友情の永続・発展を図るとともに、国際交流活動及び社会貢献活動などにより、各国事後活動組織の活動を展開することを第一の目的としています。年に1回、各国持ち廻りでSIGA (SI総会) が開催されています。



2019年4月にブルネイで開催されたSSEAYP
インターナショナル総会の様子

2. 「世界青年の船」事後活動組織 : SWYAA International

「世界青年の船」事業 (SWY) の既参加青年による事後活動組織で、事業で培われた精神の継続を目的に、SWYAA (SWY Alumni Association) Internationalを設立しています。正式加盟国29か国、準加盟国6か国が登録 (2019年12月時点) し、非加盟の関係国と合わせて65か国が連携しながら、各国で社会活動を展開しています。年に1回、活動が活発な国でSWYAAGA (SWYAA国際大会) が開催されています。



2019年9月にロシアで開催されたSWYAA
国際大会の様子

3. 日韓交流連絡会議

日本・韓国青年親善交流事業に参加した日本・韓国両国の既参加青年は、派遣年度や国を越えた既参加青年ネットワークをいかし、日韓交流の更なる発展を目指して、毎年1回、パネルディスカッションやレクリエーションを交えた、日韓交流連絡会議を開催しています。



2019年2月に韓国で開催された日韓交流連
絡会議の様子

国際会議やフォーラムに参加する日本代表青年を推薦

IYEOでは、内閣府と協力し、各国政府、国際機関などの要請に基づき、会員である内閣府の青年国際交流事業に参加経験のある青年から、日本代表青年として会議やフォーラムに派遣しています。

<派遣実績 (2019) >

- ・ 北方四島交流訪問事業
- ・ International Conference on Cohesive Societies (シンガポール)
- ・ ASEAN+3 Youth Digital Business Summit (マレーシア)



International Conference on Cohesive Societiesの様子

◆事業参加の流れ

こんな人にお勧め!

- ・国内外の青年とネットワークを形成したい人
- ・国際交流を通じた社会貢献を志す人
- ・実践的なコミュニケーション能力、リーダーシップ、異文化対応力を高めたい人

応募

1月下旬～3月

各都道府県の青年国際交流主管課又は全国的な組織を持つ青少年団体へ参加申込書と作文を提出

※年齢条件：18歳～30歳であること

(募集年度の4月1日時点。ただし、「地域コアリーダープログラム」は23歳～40歳)

選考

3月～6月

第1次選考(3月～4月)

各都道府県、青少年団体が定める選考試験を受験

第2次選考(5月～6月)

内閣府が、第1次選考の結果に基づいて第2次選考試験の受験者を決定し、実施

事前研修

6月～9月

第2次選考試験合格者は、事前研修に参加し、事業の趣旨、内容、訪問国等についての理解を深め、必要な諸準備を行う。

事業参加

出発前研修 → 事業参加 → 帰国後研修・報告会 → 事後活動研修

事後活動

内閣府青年国際交流事業の事後活動組織「IYEO」が、47都道府県で団体を組織し、幅広い活動を展開しています。その仲間に加わることによって、興味・やる気次第で国際社会・地域社会に貢献するチャンスが広がっています。

内閣府青年国際交流事業

詳しくはこちら URL: <https://www.cao.go.jp/koryu/>

内閣府青年国際交流

検索



青年国際交流2020 「新しい“道”を私がデザインするために」

発行日：2020年1月16日

発行：内閣府青年国際交流担当室

〒100-8914 千代田区永田町1-6-1 中央合同庁舎8号館8階

TEL：03-6257-1434 FAX：03-3581-1609 URL：<https://www.cao.go.jp/koryu/>

編集：一般財団法人青少年国際交流推進センター

(Center for International Youth Exchange) URL: <http://www.centerye.org/>

編集協力：日本青年国際交流機構

International Youth Exchange Organization of Japan (IYEO) URL: <https://www.iyeo.or.jp/ja/>